

# 請地だより

— 第58号 —

令和8年1月発行

発行

たかさき法律事務所

〒370-0067 高崎市請地町11番地6

TEL.027-325-9123 FAX.027-325-4101

●ホームページURL

<http://takasaki-law.gr.jp/>

●メールアドレス

[office@takasaki-law.gr.jp](mailto:office@takasaki-law.gr.jp)

## 寒中御見舞申し上げます

私事です、今年の夏には古希を迎えます。還暦の時にはさしたる思いもありませんでしたが、やはり七〇歳という年齢はそれなりの重みがあります。幸い健康状態に不安はなく、私に与えられた職責は果たせているのではないかと思います。

節目の年でもありますし、私が当事務所の設立や運営に関し何を重視してきたのか、その一部とはなりますが、振り返ってみたいと思います。私は、恥ずかしながら「地域一番店」たるフリーズに憧れていました。何を持つて一番店といえるのか、一番店たることはどのような価値があるのか、それは誰が決めるのか等々、模範解答が難し

い課題を抱えながらの出発でした。まず、個人や企業が法的な悩みに直面した際、当事務所に相談したいと思ってくれること自体に価値があります。まずはドアを叩いてもらう必要があります。来店してもらえなければ、話になりません。また、そのような事務所であり続けるために、所属弁護士は不断の精進を重ねます。羊頭狗肉とならないよう研鑽と努力を惜しむ訳にはいきません。成長の原動力となります。

そして、仮に当事務所が高い評価をいただけた場合、他の事務所が当事務所の有り様の一端でも取り入れてくれるかも知れません。そうすれば、当事務所だけでは達成できない地域社会への大きな貢献ができるはずですが、その貢献とは何か？ 弁護士がカバールべき領域は非常に広く、全ての領域に精通できるはずはありません。私は、中小企業とそれに携わる個々人の悩みを解決し、ひいては地域経済の成長に貢献したかったのです。かなりの「思い上がり」ですが、それくらいの思いがないと、わざわざ多数の弁護士を擁する共同事務所を設立する必要はありません。

多数の弁護士が所属する事務所の利点は、言うまでもなく文殊の智慧への接近です。所属弁護士の多寡が重要なではなく、複数の弁護士による多角的な検討がもたらす良質なサポートの提供に価値があります。したがって、当事務所においては、担当弁護士だけでなく他の弁護士も当該事案解決に積極的に関与する風土と仕組みを形成してきたつもりです。

他方、弁護士は自由を尊ぶ性向が強く組織からの拘束を嫌います。私自身がそうでした。よって、当事務所においては可能な限り各弁護士の自由を尊重しています。政治的・思想的信条については当然のこと、仕事の進め方だけでなく事案検討の際にもキャリアの長短に遠慮せず、活発な意見交換がなされています。

当事務所が果たして地域一番店なのか、私自身、未達であることを自覚しています。しかし、所属弁護士には、地域一番店のメンバーであらんことを胸に抱き、精進していただきたいと思っています。幸い、当事務所の中堅・若手弁護士は、事務所としての更なる成長を期して、諸課題に関する改革に着手してくれています。

この動きは、必ずや、当事務所をご活用なさる皆様に還元できるものと確信しています。

弁護士 長井 友之



事務所旅行 香川県高松市

弁護士 長井 友之  
 弁護士 田島 慎太郎  
 弁護士 清水 俊昌  
 弁護士 飯野 豪  
 弁護士 栗原 秀和  
 弁護士 並木 駿介  
 弁護士 松野 弘輝  
 弁護士 中川 良樹  
 事務局 武井 智子  
 廣木 朋子  
 堀内 敦子  
 藤橋 こずえ  
 吉田 眞樹子  
 宮前 香保

# 寒中お見舞い申し上げます



## 長井 友之

多くの人は歳を重ねることをネガティブに考えがちです。確かに、私自身、身体の動きが緩慢になり澆刺とした気持ちを持ちにくくなります。これは素直に残念至極です。しかし、嫌なことばかりでもありません。私の場合、若い頃のように全力疾走しなくても許される環境に感謝しています。他者との競争ではなく、自分の志向する道を自分のペースで歩いて行くつもりです。ゆっくり歩くと、今まで見えなかった景色に気付きます。そして、私の好きな高齢者像は、愚痴の少ない老人です。

## 田島 慎太郎

事務職員から、先日、「今日独り言多いですよ」と言われてしまいました。うるさいから静かにしろということでしょう。これがまれにあるという事務職員から弁護士へのパワハラなのか？とは思いましたが、確かに身に覚えがあります。「つーん、これどうしよう」「一件終えるまでに二件くる、全然終わらない」、「ルアー変えてみるかな...いや、アクシオンか、早巻きにしてみるか」などなど、特に仕事や釣りの最中には結構くだらない独り言を言っている気がします。

独り言は思考の整理の一助になる面が

あるものの周囲に迷惑をかけてしまうことがあります。はたして独り言をやめる方法というものはあるのでしょうか？

## 清水 俊昌

「四十の手習い」で始めたピアノは、習い始めてから四年が経ちました。大学の頃から、ヨーロッパ、特に北欧の激しいメタルばかりを聴いていた私にとって、ピアノの曲は対極に近い音楽ではありましたが、もっとも、激しいメタルとはいえ、美しい旋律を兼ね備えている曲は、意外とあるものです。対極にあるようなイメージではありますが、一つ一つの音組み合わせ、そしてそれらが生み出す美しさは共通しています。その美しさ故に、私はメタルの曲もピアノの曲も好きになっ

## 飯野 豪

皆様に本書が届くころには、娘が生まれている予定です。七年ぶりの出産ということで、過去の記憶を頼りに妻と準備を進めてまいりました。懸念は、七年分衰えた私がしっかりと赤ちゃんの世話をできるかという点です。長女の母性が覚醒することも期待しつつ、家族一丸となって新しい命と向き合っていければと考えております。家庭が慌ただしくなり

まいりますので、引き続きよろしく願い申し上げます。

**栗原 秀和**

車を運転するときは、大抵音楽を聴いていたのですが、この頃は、オーディオブックを聞く時間が長くなっています。座って本を読む時間がなかなかとれないこともあります。オーディオブックのコンテンツが充実してきて、「買ってまでは読まないが気になってい

る」本を手軽に聞けるのが便利です。また、役者や声優が朗読をする場合は、話芸としても楽しめます。近頃は上田秋成や小泉八雲、岡本綺堂の怪談にはまっています（怪談は、日本文学の精華の一つだと思います）。段々と老眼が進んでいく中、私の読書生活は、オーディオブックが中心になりそうです。

## 並木 駿介

昨年一月、日弁連野球大会の決勝大会を観察するため、沖縄県那覇市を訪れました。全国の弁護士が概ね都道府県ごとに野球チームを作り、毎年全国大会が開催されています。今回は第四回大会ということでした。今年は群馬県で全国大会が開催されるため、大会運営等を勉強するための視察という名目です。

群馬チームはというと、毎年予選敗退の弱小チームではありますが、今年は開催地枠で全国大会に出場できる（できてしまっ？）ので、なんとか恥ずかしくない試合をすべく、練習に励みたいと思います。

## 松野 弘輝

本年一月一日から、下請法が、中小受託取引適正化法（取適法）に改正・施行されております。この改正により、適用対象が拡大され、新たに従業員数の区分（三〇〇人、役務提供委託等は二〇〇人）が新設されるほか、特定運送委託も対象取引に含まれることになりました。その他、禁止行為の追加等もなされており、中小受託事業者の保護が手厚くなっています。今後の運用が実務にどのような影響を与えていくか、慎重に見守る必要があると考えております。近時は重要な法改正が相次いでおり、益々コンプライアンス対応のコスト・リスクが上がっていると感じております。皆様のお力になれるよう、一層精進して参ります。

## 中川 原良樹

今年度より、日弁連弁護士業務改革委員会の幹事となり、長井弁護士とともに法律事務職員関連小委員会のメンバーとして活動しています。同小委員会では、法律事務職員を巡る様々な課題の解決に向けた検討が続けていますが、目下の課題は、生成AIへの対応です。生成AIは、事務作業を効率化するにとどまらず、具体的な問題に対する法的見解を示すレベルにまで到達しつつあります。そのような技術革新の中で、事務職員の役割、ひいては、弁護士業のあり方をどのように変化させていくべきか。自らの存在意義を問う難問に挑んでいます。